



第129号

親 諭

「いのち程 おしきたからは なき物を あたにすてぬる人のおろかさ」

はじめに、昨年十一月二日から八日まで厳修されました不断念佛相続十九萬日大法会は、本宗各御寺院の住職、教師の皆様そして檀信徒各位の真盛上人に對する深い敬仰の念と懇篤なる志によって無事成満したことに對し、すべての関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、私たちは今ここに有り難きいのちを受けています。したがって、この宝ともいえるいのちを大切に生きたことは言うまでもないことです。しかし、ともすると、私たちはそれを無駄にしてはいないでしょうか。このいのちを無駄に捨てずに宝として輝かせるには、どうしたらよいのでしょうか。真盛上人はそのためには、阿弥陀佛を信じてそのいのちを佛界の中に捨てることだ、と説かれました。

「実に此の身を念わんと欲せば、此の身を念うことなかれ。早く此の身を捨てて、以って此の身を助けよ。徒に野外に捨てんよりは同じく佛界に棄捨すべし。」と。

私のいのちとこの身が愛しい、と念うならば、逆説的に、私のいのちとこの身は我がものではない、周りのあらゆる人やものによって仮に設けられているものだ、と念うことだ。そう念うことによって、いのちやこの身に執着しない心が起

こり、その結果、いのちとこの身は、我見や邪見の除かれた執着のないものとしてよみがえり、それを徒に野外に捨てるよりも佛界に捨てることだ、と説かれました。

ここで佛界とは、この娑婆世界を佛の眼で観る世界であり、佛の教え、つまり真理の世界です。そしてその佛界に自己の身心を捨てるということは、いま生かされていることに喜びと感謝の心を持ち、念佛を称え、自利利他の行いをするということです。

私たちは、この娑婆世界にありながら、佛界に身心を捨てて、宝ともいえるこのいのちを輝かせて生きたいものです。

令和五年一月

管長 眞盛 眞恩

池の水



天台真盛宗管長 武田 圓寵

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様にとって良いお年でありますよう祈念申し上げます。

さて、昨年十一月に行われた不断念佛相続十九萬日大法会は、皆様方の真盛上人への厚い敬仰の思いと懇篤なお志によって、無事成満できました。心から感謝申し上げます。この大法会によって、私たちは上人の教えをより深く信じ、日々それを実践しようとの思いを新たにしたいところです。

そして、その教えとは先ず自らの心を清らかにすることです。

ここで、みずからの心を「池の水」に譬えらうとしましょう。その池の水が嵐によって濁っているとしたら、その池の水に映る風景は見えないでしょう。このことは、心が欲望や怒りや無知の煩惱という嵐によって濁ってしまい、その心には真実の風景が宿らないということでしょう。

逆に、その池の水が、やさしく照り輝く太陽の光を浴びるならば、その水は澄み切って、空の青さや、流れる白い雲までも映しこむでしょう。このことは、南無阿弥陀佛と称えることによって、自らの心が阿弥陀佛の慈悲と智慧の光の中に摂め取られ、自らの心が澄み切ったものとなり、すべてのことがらのままに受け入れることができる、ということでしょう。

私たちは、自らの心を清らかに保つように、常に念仏を称えて、阿弥陀佛の光を仰ぎつつ、心濁らさないように正しい生活を送りたいものです。

不断念佛相統十九萬日大法会・聖徳太子千四百年御遠忌・傳教大師千二百年御遠忌 合行大法会 厳修される

大法会円成に対する御礼と喜び

天台真盛宗務総長 前阪 良憲



総本山西教寺伝統法要であります不断念佛相統十九萬日大法会が秋晴れの好天に恵まれ令和四年十一月二日から十一月八日まで宗門住職、教師、檀信徒の皆様、そして天台宗縁故寺院であります延暦寺様、園城寺様、四天王寺様のご協力をいただき、聖徳太子千四百年御遠忌、傳教大師千二百年御遠忌大法会が円成することが出来ました。十一月五日の中日法要は天台宗大樹孝啓座主親下を初め宗内外御大徳及び御来賓の参詣のもと、宗祖慈攝大師御影供法要を厳修出来ました。また法要期間中各教区より参詣を頂きました皆様に別時念仏をお勤め頂き、まさに水鳥樹林皆念仏が境内全体に念佛と木魚と鉦の音が響き木霊しました。

西教寺の歴史は聖徳太子仏法の師である半島の恵慈・恵聡の為に開創をされた由來から聖徳太子をお祀りしております。また、当山は比叡山東麓に位置し、慈恵大師良源、横川の恵心僧都をはじめ、比叡山御歴々の祖師方が入寺の寺としての由緒から天台宗開創傳教大師最澄千二百年御遠忌も厳修致しました。

宗祖慈攝大師真盛上人は室町時代十四歳で出家、尾張国密蔵院で修行、十九歳比叡山へ登り南上坊慶秀法師の室に約二十年間比叡山を下ることなく仏道修行に励みました。その

後、黒衣の隠通僧として黒谷青龍寺で円頓戒の念佛を会得された時、真盛上人文明八年（一四八六）坂本生源寺で恵心僧都の「往生要集」を説法されました。説法を聞いた坂本の民衆達が感得をうけ、後に比叡山横川の衆僧の招聘によって西教寺へ入寺されました。日課六万遍念佛を唱え不断念佛道場として毎日常念佛が相統され、今日十九萬日を迎える大法会を厳修することができました。真盛上人は、御歳五十三歳で入滅いたしました。存命中、宮中参内、後土御門、後柏原天皇に御進講、一方、越前、伊勢、伊賀、山城、河内等各地で信者に対して称名念仏の法悦を結び「あいかまえて無欲清浄によくよく念佛すべし」と御遺誡を残され西教寺に不断念佛道場として相統されました。

十一月八日十九萬日大法会結願とともに二十萬日大法会が開闢されました。宗祖真盛上人の御恩に報いるため不断念佛が未来永劫相統していかなばなりません。結びになりましたが、御参拝の有縁の方、そして記念事業完工の為に尊い御浄財を喜捨して頂きました皆様に篤く御礼を申し上げますとともに、不断念佛相統二十萬日開闢の喜びと致します。

合掌
(滋賀教区深光寺住職)



大塔婆回向

令和四年十一月二日（水）より八日（火）まで総本山西教寺において不断念佛相統十九萬日大法会・聖徳太子千四百年御遠忌・傳教大師千二百年御遠忌が厳修された。当初令和三年に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大という不測の事態により、令和四年に一年間延期することとなり、来場参詣者も制限せざるを得ない状況での実施となった。

十一月二日（水）昨日までの雨もやみ、少し肌寒い中、滋賀教区常照寺住職川合歳明師のもと、献華式が行われた。前日には各諸堂に華を生けていただき、当日は本堂への生花を献じていただいた。その後、開闢法要が厳修された。まず桃山御殿にて式次第の説明があり、その後宗祖大師殿へ移動。全教区より選ばれた二十名の僧侶が朱の袍裳に七条袈裟を着し、武田管長親下大導師のもと開闢法要を執行。法要後、石段を登り十九萬日供養塔前にて開眼法要、本堂前大塔婆回向へと進んだ。

その後本堂正面スロープより真盛樂所の演奏で迎えられ入堂、行道一匝半の後着座、法華懺法を厳修。法要後には武田管長親下より御十念を頂戴し開闢法要を無事終えることが出来た。

法要後は、開闢布教として、伊賀教区西蓮寺山本純裕住職による布教が行

われた。

午後一時三十分より伊勢教区法要が三座執り行われた。今回の十九萬日大法会は、基本的に別時念仏を主体とする法要と決まっており、たくさん檀信徒にお詣りに来て頂き別時念仏をして頂く予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策として、参詣者を一座百五十名までに制限せざるを得ず、入念な計画及び入堂の効率化、且つ、迅速な入れ替えが求められた。

伊勢教区の導師を勤められたのは、
一座目 西来寺住職 寺井良宣師
二座目 福藏寺住職 喚阿宏道師
三座目 新光寺住職 三津堯賢師



伊勢教区法要

であった。

それぞれの法要後すべて武田管長猥下より御十念及び御親教を頂戴し、参詣者へのねぎらいと御念仏の功德をお説きになった。

午後五時より夕勤行法要の例時作法を宗祖大師殿にて前阪良憲事務総長を導師とし勤修した。勤修の間、全教区より修められた霊名札回向も行った。

十一月三日(木) 朝勤行を本堂にて執行し、九時より滋賀教区西徳寺・西接寺鉦講保存会と、西徳寺詠唱会による御詠歌が奉納された。ここ数年新型コロナウイルス感染症の影響で、四月の法華千部会にて奉納出来なかったが、久々に本堂に鉦の音が響く法要であった。

その後、九時五十分より滋賀教区法要が三座執り行われた。法要次第は、別時念仏を主体とした法要であり、また参詣者も伊勢教区同様入堂の制限もあり、入念な計画及び迅速な入れ替えが求められた。

滋賀教区の導師を勤められたのは、
一座目 蓮乗寺住職 藤上良英師
二座目 真光寺住職 石田義光師
三座目 深光寺住職 前阪良憲師
であった。

それぞれの法要後すべて武田管長猥下より御十念及び御親教を頂戴した。



滋賀教区法要



滋賀教区 西徳寺詠唱会

その後、滋賀教区西徳寺御詠歌講による御詠歌の奉納があった。
午後二時より宗外寺院の和宗総本山四天王寺様による「唄散華舞樂法要」が執行された。

客殿より天王寺楽所を先頭に本堂へ入堂、四天王寺管長加藤公俊猥下を大導師とし法要を執行され、天王寺楽所による舞樂も奉納された。本堂左余間の空間を存分にいかした舞樂を見ようとして参詣者が入りきれない程であった。
午後五時より夕勤行を本堂にて蜂谷眞勝社会部長を導師とし阿弥陀経読誦で勤修した。勤修の間、全教区より修められた霊名札回向も行った。



和宗総本山 四天王寺様

十一月四日(金) 朝勤行を本堂にて執行し、午前十時より宗外寺院の天台宗延暦寺様による「傳教大師御影供」が執行された。客殿にて式次第を読み上げた後、本堂へ入堂され、大樹孝啓御座主猊下を大導師として法要を勤めて頂いた。天台声明が本堂に拡がり凜とした雰囲気の中での法要であった。最後に水尾寂芳延暦寺執行より御挨拶を頂きました。

午後一時三十分より伊勢教区法要が三座執り行われた。伊勢教区としては二日目ということもあり、会奉行や承



天王寺楽所 (舞楽)



伊勢教区法要



天台宗延暦寺様

仕やスタッフの動きもよく、参詣者の迅速な入れ替えが行われた。

伊勢教区の導師を勤められたのは、一座目 福德寺住職 藤田堯英師 二座目 成願寺住職 西山眞澄師 三座目 観樹院住職 前田覺隆師であった。

それぞれの法要後すべて武田管長猊下より御十念及び御親教を頂戴した。

午後五時より夕勤行を本堂にて石田義光教学部長を導師とし阿弥陀経誦誦で勤修した。勤修の間、全教区より修められた霊名札回向も行った。

十一月五日(土) 前日同様朝勤行を本堂にて執行し、午前十時より滋賀教区大清水寺の御詠歌講による御詠歌おどりが奉詠された。子供達による踊りの奉詠に本堂が少し華やいだ雰囲気となった。

午前十時三十分より直轄教区法要が執り行われた。コロナ禍の中、全国より苦勞して登山頂き、別時念仏会という法要内容で充実した念仏の時間を過ごして頂いた。法要後武田管長猊下より御十念及び御親教を頂戴した。

正午より直轄教区京都本光院門跡・西方尼寺住職 藤原盛順師による献茶式が本堂にて行われた。参拝者は藤原師によるお手前を熱心に見たり、ビデオ撮影をされる人もおられた。



献茶式



滋賀教区 大清水寺 御詠歌おどり

その後、中日布教として伊勢教区西來寺寺井良宣住職による布教が行われた。

午後二時より中日法要として、慈攝大師御影供が真盛楽所と共に厳修された。中日法要は、宗外寺院等の御来賓も約五百名程お招きし、全教区より選ばれた二十八名の式衆僧侶が法裳を着用し、約三年の間練習を積み重ねた成果を披露した。式衆と雅楽が一体となり、完成度の高い法要、演奏となった。

午後五時より夕勤行を本堂にて大上良雅財務部長を導師とし阿弥陀経読誦



慈攝大師御影供

で勤修した。勤修の間、全教区より修められた霊名札回向も行った。

十一月六日（日）前日同様朝勤行を本堂にて執行し、午前十時より宗外寺院の天台寺門宗園城寺様による傳教大師千二百年大遠忌慶讃法要として法華懺法が執行された。客殿で式次第を読み上げ本堂へ入堂され、村上法照猊下を大導師として、園城寺特有の声明（怒り節）を本堂いっばいに響かせお勤め頂いた。法要の中で三井古流煎茶道による献茶式も執り行って頂いた。



天台寺門宗園城寺様



伊賀教区法要

午後一時より伊賀教区法要が三座執り行われた。伊賀教区参詣者は御詠歌講を中心にお参りを頂き、僧侶方の協力もあり入れ替え誘導も円滑に行われた。

伊賀教区の導師を勤められたのは、

一座目 西蓮寺住職 山本純裕師

二座目 九品寺住職 別所泰広師

三座目 西蓮寺住職 山本純裕師

であった。

それぞれの法要後すべて武田管長猊下より御十念及び御親教を頂戴した。

午後五時より夕勤行を本堂にて大上良雅財務部長を導師とし阿弥陀経読誦で勤修した。勤修の間、全教区より修められた霊名札回向も行った。

十一月七日（月）朝勤行を本堂にて執行し、午前十時三十分より伊勢教区法要が二座執り行われた。伊勢教区法要も三回目となり、会奉行・会行事の僧侶方への案内、本堂への参詣者の入堂・退堂など円滑に進み法要も予定通



伊勢教区法要



福井教区法要

り執行された。

伊勢教区の導師を勤められたのは、
一座目 浄見寺住職 藤田秀昭師
二座目 引接寺住職 小泉法秀師
であった。

それぞれの法要後すべて武田管長猥下より御十念及び御親教を頂戴した。
午後一時より福井教区法要が三座執り行われた。十九萬日法要の別時念仏会もいよいよ最後となり、事務局スタッフ一同今までの誘導案内の経験をいかし円滑な法要となった。

福井教区の導師を勤められたのは、

三座とも引接寺住職 市川隆成師であった。

また、それぞれの法要後すべて武田管長猥下より御十念及び御親教を頂戴した。

十一月八日（火）朝勤行を本堂にて執行し、いよいよ十九萬日法要会結願法要及び二十萬日大法会開闢法要を迎えた。この日は、これから天台真盛宗を担う僧侶が全教区より選ばれ法要を行った。まず桃山御殿にて式次第の説明があり、その後宗祖大師殿へ移



武田圓寵管長猥下

動。二十名の僧侶が朱の袍裳に七条袈裟を着し、武田管長猥下大導師のもと十九萬日大法要結願法要として圓戒国師和讃を執行。法要後、引き続き御練にて本堂へと進んだ。真盛楽所の演奏によって迎えられ入堂。今日から新たに壹萬日不断念佛を続けるという二十萬日大法会開闢法要を菩薩戒経読誦によって執行した。

法要後は、結願布教として、福井教区引接寺市川隆成住職による布教が行われ、すべての法要が終了した。

「不断念佛相続 十九萬日大法会」に参加して

伊勢教区 山内組 観樹院総代

紀平 昇

令和三年に計画されていました不断念佛相続十九萬日大法会が、新型コロナウイルス禍蔓延の為一年間延期されましたが、今年は開催され伊勢教区法要に二台のバスに分乗して私も参加させて頂くことが出来ました。

秋空の広がる爽やかな十一月四日。山門をくぐると色付き始めた紅葉と、参道でにこやかに微笑みかける小仏様達に迎えられました。

本堂内は、歴史を感じる重厚な雰囲気、ゆつくりと清々しい空気が流れていました。幸いにも最前列に着座させてもらい、金色に輝く阿弥陀様を拝顔し、その堂々としたお姿と包み込むような優しいお顔を見つめていると、ある種の安堵した気持ちが入り込みました。堂内に響く鉦と木魚に合わせて「南無阿弥陀仏」と何度も唱え続けていると、不思議な非日常的な感覚になりました。

また武田管長猥下の御法話から、今生かされているこの命の大切さと儚さを教えて頂きました。

自分のこの命は二人の父母と、四人の祖父母、八人の曾祖父母、その又十六人の祖先へと続き、十代前まで遡

るとその数は千余名と脈々と受け継がれ、その命と同じ数の親が子供を思い、又その子供が親を慕う心も受け継がれて、今の自分へと繋がっていることの自覚を再認識させて頂きました。

真盛上人の幼少期の想いを聞き、私は命の儚さゆえに一日一日を、一瞬一瞬を大切にすることに気づかせて頂きました。

法要を通じて小さな事へ感謝する心を大切にし、これからも暮らしていけたらと思います。

.....

不断念佛相続十九萬日大法会

(聖徳太子千四百年御遠忌・

傳教大師千二百年御遠忌 参拝して

滋賀教区 蒲生組 西福寺檀越

小川 稔雄

秋晴れの紅葉輝く心地よい十一月三日に滋賀教区西福寺檀家は、住職と共に不断念佛相続十九萬日大法会滋賀教区法要の一座目の別時念仏会(導師・藤上良英師)に大型バスにて団体参拝致しました。

不断念佛相続十九萬日大法会記念写真、昨年本山で行われた滋賀教区別時念仏会団体参拝、「念佛三昧の一年」運動による寺や檀信徒の家での法要時の別時念仏、特派布教などで不断念佛相続十九萬日大法会厳修の機運が高ま

る中での御本山参拝でした。

莊嚴な本堂の中で、出仕の僧侶や参拝の皆様と心を一つにして「南無阿弥陀仏」と唱和し、武田管長猥下のお声に合わせて十念名号を唱え、猥下の御法話を拝聴し身が引き締まる思いが致しました。一萬日毎の大法会という千載一遇の好機に出会うことができ、喜び一入でした。

真盛上人の報徳に報謝し、混沌とした今日、不断念佛相続十九萬日大法会にお参りし、改めて御念仏のある生活を生きる糧とし安寧を願う気持ちを高揚させた一日でした。当日の別念仏会には当山の副住職が諸先輩の僧侶と共に仕され、檀家としても重ねて嬉しいことでした。

新型コロナウイルス感染者が減少傾向にあり、町内では久方ぶりの団体行動で、御本山参拝の後、浮御堂参拝、昼食、買い物などで帰途につきました。バス車中や昼食時には時間を忘れるほど和気あいあいと話に花が咲いておりました。

.....

不断念佛相続十九萬日大法会

伊賀教区法要に参加して

伊賀教区 阿弥陀寺御詠歌議員

末竹 榮子

爽やかな秋晴れとなった十一月六日、不断念佛相続十九萬日大法会、伊賀教

区法要に総代様とともに十四名で参加させて頂きました。

この度は、各寺院の御詠歌講から二名ずつが内陣に入らせていただくこととなり、私もその一人となりましたので、ご指導いただいた所作を間違えないようにと緊張しながら出発いたしました。石山寺前での昼食の後、色付き始めた紅葉を目に、総本山西教寺へ。亡き父と一緒に参りさせていただいた日を懐かしく思い出し、無事に務めさせて頂いただけますようにと願いながら坂道を歩きました。

控室では、北部組の御寺院の方々とお互いに声をかけ合って所作を確認しあい、練習をいたしました。ほとんどは初対面の方々でしたが、共通の思いで結ばれているためか、緊張の中にも温かい雰囲気の流れうひとときでした。

御案内を頂き裏堂へ集合、整列し法要となりました。地藏菩薩和讃の響く中を厳肅な雰囲気包まれて入堂。御導師様の入堂とともに法要が始まりました。別時念佛へと進み管長猥下が入堂されました。管長猥下より御十念をお授けいただき、その後、御親教を賜りました。自分一人ではなく他者とのつながりの中で生かされていることや、お念佛を唱えることの意味や意義を穏やかなお声で力強くお話くださり、緊張していた私の心にも温かく沁みわた

る心地がいたしました。法要の最後に念佛和讃が始まり管長猥下が出堂され、私達も御本尊に手を合わせた後裏堂へ揃いご挨拶があり、法要は無事終了いたしました。

今回皆様とともに御本尊の前に座するご縁を戴いたことは、自分自身を振り返り、これからの生き方を考える良い機会となりました。今日の感動を忘れることなく、日々を大切に過ごして参りたいと思います。

帰途のバスの窓から見た夕暮れ時の琵琶湖に輝く月とともに、今日この日は生涯忘れられない大切な一日となりました。ありがとうございます。

.....

不断念佛相続十九萬日大法会の

厳修の参詣を終えて

福井教区 長運寺檀越

橋本 壽ひさし

約三十年に一度、厳修されるといふ不断念佛相続十九萬日大法会で本山に参詣させて頂いただき、健康であることを有り難く思うとともに、大変な法悦にひたっております。何よりも素晴らしい天候に恵まれ、寒くもなく暑くもなく快適な状況でお参りできました。さて、御本山はもとより多くの関係者のご努力によりこのお参りができて、しかも成功裏に終了されたと思ってお

ります。私どものご住職も準備等で忙しい日々を送られたと同時に、長い期間を本山で過ごされたと聞き、心より感謝を申し上げます。

ところで、不断念佛がこの長い期間相続されていますが、開祖真盛上人が本山西教寺に入寺された時を起点とされているそうです。僧侶方と我々参詣者が一体となって御念仏を称え、鉦と木魚の音が相増して荘厳な時を過ごしているようで感無量でした。

また六月に、武生引接寺さんにおいて、御本山西教寺武田圓龍管長猊下が来られての別時念仏会にも参詣させて頂き大変喜びと感謝をさせて頂いております。

十九萬日大法会後は、約三十年後の不断念佛相続二十萬日大法会に向かつての始まりとなるそうですが、法要の最後に若手の僧侶により引き継ぐべく、不断念佛相続二十萬日大法会開闢法要が厳修されたと聞いております。私どもはその二十萬日大法会に合わせて頂くことは難しいと考えておりますが、私どもの寺のご住職の息子さんを含め僧侶方達が二十萬日大法会を厳修になられることを心から御祈念申し上げます。

最後に福井教区の各寺院ならびに檀信徒の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

人形供養のご依頼受付中
(二月末日迄)

人形供養法要

三月三日 午前十一時～

ひな人形展

二月十日～三月十二日



子ども達の頃、一緒に長い年月を共にしたお人形やぬいぐるみを処分するのは大変心苦しいものです。

西教寺では、そんなお人形やぬいぐるみに感謝を捧げ、抜魂供養の法要を行っております。

檀信徒の皆さままで、お人形の供養を

ご希望される方は、西教寺までご相談ください。(電話〇七七―五七八―〇〇一三)

供養でお持ちいただきました、お人形は法要までの間、お飾りをしてご参詣の皆さまへご覧いただいております。

三月三日の午前十一時より、武田圓龍猊下の御導師のもと法要を行います。持ち寄られた、ひな人形の中には大変古いものや貴重なお人形もあります。それらは、このまま役目を終え、誰にも見てもらえないのは忍びないという事で「ひな人形展」を書院にて二月十日より三月十二日まで開催いたします。

皆さま「ひな人形展」に是非お越しください。



ひな御膳のご案内

二月十日より三月五日の期間、「ひな御膳」(二二〇〇円)のご提供を行なっております。ご予約は西教寺売店受付まで。(電話〇七七―五七八―〇〇一三)



ひな御膳

檀信徒の皆さまへお願い

総本山西教寺にご参拝の際は、先にご配布させていただきました「檀信徒用無料拝観券(ご家族五名様まで)」を必ず受付へご提示ください。紛失された方は、本紙(寶珠)をお持ちいただきご提示いただきますよう、お願い申し上げます。

発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七五七八) 〇一三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七五三三) 一二四一番